

# 光多とともに

友田多喜雄  
絵・磯見美知子



# 光多とともに

友田多喜雄  
絵・磯見美知子



# 光<sup>こう</sup>多<sup>た</sup>とともに

---

1985年 7月12日 第1刷発行

定 価 950円

著 者 友田多喜雄

発行者 野間惟道

発行所 株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21(郵便番号112)

電話 東京03(945)1111(大代表)

N. D. C. 911 166p 22cm

印刷所 株式会社 廣済堂

双美印刷株式会社

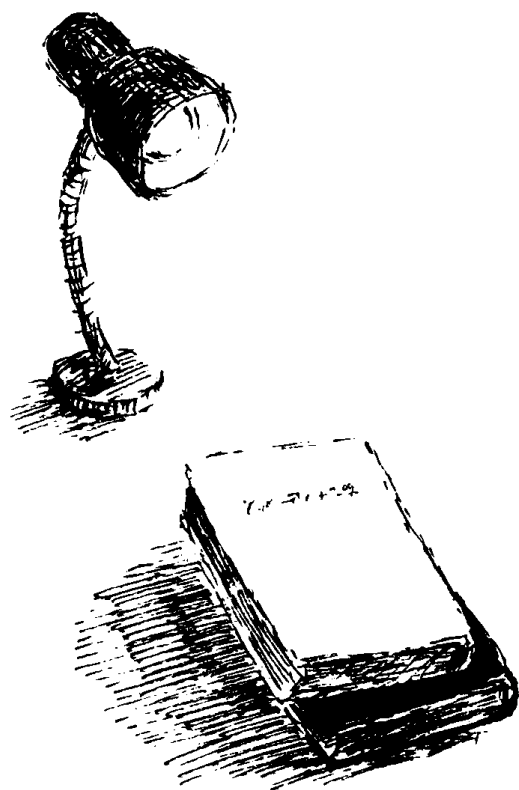
製本所 大製株式会社

---

©TAKIO TOMODA 1985 Printed in Japn

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。  
送料小社負担にておとりかえます。

ISBN4-06-202171-4 (0) (兎企)



退院 8

アレルギー食 10

算数の特訓 12

クロが仔を産んだ 14

仏教童話全集 16

お母さんの話 18

キャベエチュとパン 20

豚の仔 22

てんぐのうちわ 24

七五三の写真 26

チャーリーの小父さん 28

天使 31

お暑いですね 33

お風呂に入って 35

お母さんの理想 37



校区外の冒険

40

フランケンシュタイン

42

市場

44

勇気

46

ゲームセンター

50

授業参観日

54

どちらがよいか

58

自転車を盗られた

62

ムチで追うような

64

大学へはいきません

66

ちいさな学校

68

舞鶴

70

ペチカのある家

72

転校はいやだ

74

しゅんちゃんが就職して

77



転居のお知らせ 80

ユニホームと剣道着 82

きりさめけふる 84

春の日や 86

運動会で 88

往復の車中で 91

白鳥が飛んできた 94

お母さん遊ぼう 98

卒業式 100

大きい兄ちゃんが結婚して

旅行 105

ひげ 109

光多のコレクション 111

熱を出した 114

通知箋 116



キャンプ旅行 118

お母さんがけがした 122

お父さんはねむれなかった 125

お父さんは悩んだ 128

心理テスト 131

共生 135

しかる 140

光多の幼友達が 142

一年生のまんびき 146

足の長さ 148

短足同盟 151

先生にほめられて 153

サハリンへの旅 155

あとがき 162

解説／阪田寛夫 164





光多とともに



# 退院

病院から退院してきて

光多はまた

もとの生活にもどった

けれど退院するときお医者さんは言われた

「紫斑症は

これで終わることは少ないのです

二度三度 同じような症状が出てきます

だんだん出方は弱くなり

いつの間にか 出なくなりますけど

……だから

食事に気をつけないけません」

「牛乳・乳製品・牛肉 それに卵・鶏肉

豆腐・納豆などの大豆製品

「これらは半年以上とってはいけません」

とおっしゃった

アレルギー食を続けねば……

とおっしゃった



## アレルギー食

アレルギー食

牛乳・乳製品・牛肉・卵に鶏肉

豆腐・納豆など大豆製品を禁じた食事

おしょうゆも大豆を使つてないアレルギーしょうゆ

肉は

豚肉だけ それも四日に一回くらい

だから 野菜とお魚が中心の食事

学校でも

先生にお話しして給食も

禁じられているものは残させてもらう

それは



思ったより大変なことだった

駄目といわれるものは

みな 光多の好物ばかりだったから

でも

光多なら我慢しぬくだろう

「ぼくは絶対お墓にはいかないぞ」

病院のベッドで

そう叫んだ光多だもの

お父さんも お母さんも

そう思った



## 算数の特訓

算数の特訓が始まった

大きい兄ちゃんが大学から帰ると

毎日三十分

入院していた間の遅れをとりもどすため

いいや そうではない

光多はもともと 計算が弱かった

二けたの掛け算はおろか

三けた四けたの足し算だって

三年生の同級生に追いつけない

だから

大きい兄ちゃんは

ときどき「タンタン！」

と ちいさなときの光<sup>こう</sup>多<sup>た</sup>の呼<sup>よ</sup>び名<sup>な</sup>で

しかりつけ

それでも

ていねいに教えてくれていくのだった

クロが仔こを産うんだ

クロが仔こを産うんだ

ちいさく かわいいのが四匹ひき

お母さんは心配する

もらってくれる人がなかったらどうしよう

どうせ捨すてるなら

早く捨すてたほうがよくないかしらと

けれど光多こうたは駄目だめだという

ぜったい捨すてては駄目だめだという

「お母さん 心配しなくていいよ

ぼくが必かならずず

もらってくれる人をみつけるから」

そして 本当に